

事前評価報告書

R2年8月25日(火)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	施設栽培における難防除細菌性病害発生要因の解明と対策	
研究期間	R3年度 ~ R5年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.4
2	研究内容の新規性	3.0
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.4
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.0
	総合評点	3.2
[評価所見]		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本研究課題から期待される成果は、施設圃場内のリスクを顕在化すること、また、器具等の消毒に有効な薬剤を選定すること、最後に登録済みまたは未登録農薬の有効性を確認することにある。対象病害は他の都道府県でも危惧されているので、関東東海地域の研究機関とも情報共有しながら新知見の蓄積と研究成果の活用・公表を進めていってほしい。 ・ 植物病害の防除は生産者の収入に直結する重要な課題である。本研究では大型施設における病原菌の分布をしっかりと明らかにする点でとても重要な課題だと思われる。その結果から、有益な防除法に関する知見が得られることを期待する。 ・ 病害発生要因解明は良いと思うが、病害発生頻度が低いと考えられる。 ・ 細菌性の病害で色々試して苦労してる農家も多いと思うので解明して、いつの時期に何の薬剤を散布すればいいのか、また抑制する薬剤等を研究して戴きたい。 ・ 生産者がなかなかできない植物の難病を県の研究で進めてくれるのは心強いと思うので、しっかり結果が出るように期待する。 		

事前評価報告書

R2年8月25日(火)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	県産主要鉢花における高温対策技術の確立	
研究期間	R3年度 ~ R5年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.2
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.2
	総合評点	3.3
<p>[評価所見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 花き4品目の生産環境に応じた工夫を検討する点で、研究内容に具体性が感じられる。単に「高温」という抽象的な言葉だけでなく、その温度が何度なのか、品目ごとに科学的エビデンスを数値化して生産者を含めた全ての関係者で情報共有できるような連携体制で臨んで頂きたい。 ・ 地球温暖化による高温障害の発生頻度は今後、ますます増加するとみられる。生産現場からのニーズを反映した高い技術が開発される可能性を十分に感じるので、今後の研究の進展を楽しみにしている。 ・ 各品目の試験内容には「高温」が要因とみられているが、その他には起因するものはないのか検討してみてもどうか。 ・ 近年の異常気象で夏場の高温による高温障害はこれからの栽培に必須な研究だと思う。低コストで高温障害対策ができると農家が実施しやすくなり、所得安定につながりいいと思う。 ・ 地球温暖化の中で結果を出すのは大変だと思うが大いに期待している。 		

中間評価報告書

R2年8月25日(火)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	ICTを利用した施設土壌トマトの高収益栽培技術の確立	
研究期間	R1年度～R3年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度	3.8
<p>[評価所見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内産地で取り組まれているICT技術を利用した新規栽培方式のメリットおよびデメリットを明確にし、効果的なマニュアル制作に結びつける点で、具体的必要性が認められる研究課題である。これまでの研究成果も、着目すべき点として、半促成栽培における定植時期の前倒しがポイントとなることを明らかにした。トマトの換金性に応じて掛けられるコスト(導入できる機械化)も自ずから見えてくると思われるので、課題終了時には是非とも経営評価も含めた技術体系を確立して頂きたい。それにより、作成するマニュアルの産地への普及が加速されると思われる。 ・ 1か月早く定植することで、1か月早く収穫できることを実証し、土壌水分をリアルタイムでモニターすることで、収穫量を従来よりも高めることを示しており、意義のある内容であった。しかし、評価指標が収穫量だけということについては今後検討する余地があると感じた。また、施肥量を2割削減できると言及していましたが、土壌水分量と施肥に関する情報を統合して、今後の検討をしていただけるとより生産者が利用しやすいマニュアルが作成できるのではないかと感じた。今後の研究の進展を期待している。 ・ 同じ作型でキュウリに取り組むとよい。裏作での栽培技術の検討も行ってみてはどうか。 ・ 早期定植した時の暖房費等の経費と増量分の収益でどのくらい利益が出るかなども算出してほしい。初期コストがどのくらいで、増収がこの位なので何年で元が取れるなどのデータもあると農家は取り掛かりやすい。研究はICTを既存施設でうまく活用していいと思う。 ・ 近年、ICTを利用した若い生産者が増えると思うので、いろいろな作物で利用できるよう、研究してもらいたい。 		